

## 小児科臨床研修プログラム

### 【指導医】

加藤 文英（新生児科部長、兼小児科部長）：日本小児科学会 小児科専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医・指導医、NCRP インストラクター、日本周産期・新生児医学会評議員、日本新生児成育医学会評議員、日本小児放射線学会代議員、島根県周産期医療協議会委員、日本小児科学会中国四国地区資格認定委員、島根大学医学部臨床教授、島根県立大学非常勤講師

山田 健治（小児科医長）：日本小児科学会 小児科専門医、臨床研修指導医、医学博士

平出 智裕（小児科医長）：日本小児科学会 小児科専門医、臨床研修指導医、医学博士、島根大学医学部臨床講師

小池 大輔（小児科医長）：日本小児科学会 小児科専門医、臨床研修指導医、島根大学医学部臨床講師

【上級医】 岡村 里香子

【期間】：4週間

### 【一般目標 GIO】

小児領域における common disease や救急疾患の初期対応を行い、専門科との連携を行うために小児および小児疾患の特性を理解し、より積極的に基本的診療能力を修得する。

### 【行動目標 SB0 s】

1. 小児の病態生理を理解することができる。
2. 小児領域における common disease や救急疾患を列挙できる。
3. 救急外来において専門科の医師に適切なコンサルトができる。
4. 救急外来において入院適応が理解できる。
5. 小児に対して基本的身体所見を評価できる。
6. 入院症例に対して病歴聴取、診察、検査計画に参加する。
7. 入院症例に対する治療計画を自ら立案し、上級医と議論する。
8. 患児、保護者、コメディカルとのコミュニケーション能力を身につける。
9. 小児に対する検査、治療の侵襲について理解する。
10. 新生児、乳児の全身状態の評価法を理解する。

### 【方略】

1. 小児科入院症例の担当医となり、診療に参加する。
2. 保護者への対応、病歴聴取法、病状説明について学び、自ら実践する。
3. カンファレンス・回診で、受け持ち症例について問題抽出し、発表する。
4. 救急外来診療に参加し、段階的に、病歴聴取、診察処置、病状説明を行う。
5. 分娩、新生児検診、1か月健診に参加し、新生児、乳児の全身状態の評価法を理解する。
6. 書籍、インターネットを通じたエビデンスの収集方法について学び、担当症例関する文献や、最新の知見についての理解を深める。研修期間中に1度は抄読会で演者を担当する。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
8:15～	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
8:30～	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
9:30～		病棟廻診			
午後	予防接種外来		乳児検診・外来		
17:00～				抄読会	

平日日勤帯：分娩立会い、救急外来、新生児検診については上級医からの連絡時に、見学・参加する。

土曜日・日曜日の時間外：Duty は無い。

【評価】

1. 病院全体の評価方法に準じる。